メ　イ　ロ　ウ
MEIROH
2022.Dec.
No.93

社会福祉法人光明会

健康経営宣言！

健康経営PTメンバー

人財創造部	法人総務部	法人総務部長	人財創造部
安田耕平	髙橋沙織	鈴木幸子	兼坂　渉

「健康経営」とは、職員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。

社会福祉法人光明会では働く職員の健康を守るため法人総務部、人財創造部が主となり、健康経営プロジェクトを発足させ、令和４年６月16日に全国健康保険協会へ「健康宣言」をいたしました。健康経営プロジェクトでは、働く職員の心身の健康を守るための活動と情報発信をしております。今後は地域の健康課題に即した取組みや日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度である「健康経営優良法人」の認定取得を目指します。健康経営優良法人の認定を受けるには、22件の要件をクリアすることが必須となっています。認定要件のクリアに向け、６月から職員へ特定保健指導の声掛けや、受動喫煙の対策の一環として各事業所の喫煙所の確認、10 月から職員の皆様と一緒にリフレッシュタイムとして健康体操をスタートしました。

今後は無料歯科検診についてのご案内などを各事業所に配付する予定です。

法人職員の力を結集して健康経営をよりダイナミックに進めてまいります。

（文責　事業所管理者　兼坂　渉）

万物流転

万物は時とともに絶えず変化し移り変わる

社会福祉法人光明会
理事長　小　澤　定　明

明朗塾等における新型コロナウイルス集団感染の発生

令和４年11月５日（土）に女性入所顧客１名の新型コロナウイルス感染が判明しました。ただちに別棟の個室にて療養を開始するとともに、濃厚接触者10名の抗原検査を実施し、10名全員の陰性を確認しました。この時は明朗塾施設長の山本樹からの報告に安堵するものの一抹の不安が拭いきれないでおりました。その後、最初の陽性者発生から１時間半後に無断外出していた男性入所顧客が発熱した状態で帰塾され、ただちに抗原検査を実施すると陽性が確認されました。すでに職員には陽性者支援を想定していた特別勤務体制に移行させていましたが、第２報を受けたときの動揺は隠しきれるものではありませんでした。ここから約１か月間（29日）にも及ぶ収束までの長き戦いが始まりました。

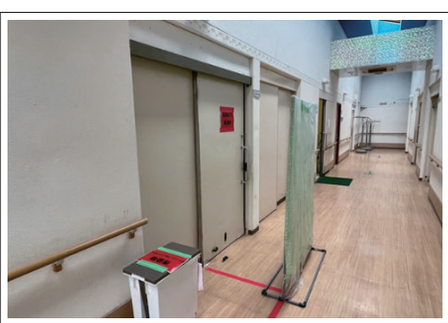
翌６日には新たに入所顧客３名の陽性が確認され、そのうち１名は息苦しさと胸の痛みを訴え救急搬送されました。

翌々日７日にはグループホーム顧客１名にも陽性が確認され、その後も陽性者は増え続けました。結果的には、顧客25名および職員５名の集団感染に至りました。幸いにも救急搬送された入所顧客も早期に回復され、その他の陽性者も軽症であったことが救いでありました。

特別支援体制　24時間途切れることのない陽性顧客への生活支援

明朗塾の感染対策については施設長をはじめ全職員の献身的な協力が得られたことにより、特別支援をする職員への感染が日に日に増えていく緊迫した状況下の事業継続が成し得られました。

最初の陽性者発生から５日後の11月10日（木）に印旛保健所のクラスター対策チームの現地指導が受けられ、適切なゾーニングやスタンダードプリコーション（標準予防策）の具体的な方法について指導により実効性の高い特別支援体制が整いました。

明朗塾館内の特別支援		職員寮及び研修棟での特別支援
		
定期検温する山口諭事業管理者	明朗塾館内の陽性者療養室	標準防護具（N95、フェイスシールド、ヘアキャップ、ディスポガウン、ディスポグローブ）

集団感染下の職員の勤務は連日長時間労働を余儀なくされ、自らへの感染を顧みず、自宅や家族のもとをも離れ、防護服を着て陽性顧客の支援に当たられた多くの職員に、そしてそれを支えた職員に、プロの支援者としての自覚と責任感を強く感じました。陽性になった職員は皆、自らの至らなさをただただ悔いるのみで一言の不平も不満も漏らさず、療養期間が終了し勤務に復帰した工藤純事業リーダーの「ただいま」の一言に胸を熱くしました。この職員の姿勢は光明会の経営の原点である「何があっても見捨てない」をまさに体現された姿でありました。

明朗塾の集団感染から学んだこと

皆様のおかげをもちまして、令和４年12月３日をもってこのたびの集団感染は収束いたしました。

集団感染の発生は、私たちに様々な学びをもたらしました。この間の感染対応によって多くの職員が持てる力と責任感を発揮し大いに成長する姿がそこにはありました。まさに坂村真民の言葉にあるように「危機の中で人は成長し、危機の中で人は本物になる」ということでありました。

これまでは私たちは当たり前のように感染予防を理由にお客様の行動を制限してきました。これにより生活支援の質が低下することを正当化し、さらなる生活支援の可能性を探る思考を停止してきていたのです。これは新型コロナウイルスのせいではなく法人の組織力のなさのせいであることに気が付きました。

この気づきにより私も「新型コロナウイルス」を逃げ口上には決してしないと意を新たにしました。

今後は新型コロナウイルスを機会とした生活支援向上に、全職員とともに大いに取り組んで行きたいと考えております。この成長した職員たちが実現してくれるであろう、この先の障害者支援の内実の向上を大いに期待してるところです。

変化に対応する力を養い、社会構造変化に適応し続ける

ただ新型コロナウイルスをはじめとするウイルスはこの世の中から消えてなくなることはありません。日本国内においては新型コロナウイルスの感染者数は再び上昇局面に入っています。季節性インフルエンザは同時流行の懸念もあるところです。これまでの人類史を見てもウイルスとの共存は避けて通れない道でありましょう。

この世に存在する全てのものは、変化し続ける宿命を背負っています。私たちの法人も新型コロナウイルスがもたらした社会構造の変化に対応し適応していかなければなりません。現代社会で起きているロシアのウクライナ侵攻による世界的な影響や急激な円安、長引く不景気もしかりです。

次代を担う常務理事小澤啓洋を中心とした役職員には「障害のある方々が働くことで誰かを幸せにする人生支援」の在り方を問い、それを実現する組織マネジメントの強化を期待します。

山武郡市手をつなぐ親の会連絡協議会からの善意のご寄付に心からの感謝を申し上げます。寄付金 五拾萬円也

このたび山武郡市手をつなぐ親の会連絡協議会の解散にあたり鈴木ゑみ会長他役員の皆様にご来訪いただき多大なるご寄付を贈呈いただきました。

本紙面にご来訪されたご芳名を掲載し、これまでの障害のあるお子様の物心両面を支えるために、寝食をも忘れご活動なされたそのご功績に深甚なる敬意を表します。

【ご来訪いただいた親の会の皆様】

鈴木ゑみ様　菊池まさ子様　清水光代様　日暮久美子様

広報紙 Meiroh 読者の皆様

２０２０年初頭から我が国では新型コロナウイルスが日常生活の中に存在することを当然とみなす新しい生活様式を期せずして追求することとなりました。間もなく３年後経過しようとしていますが、未だウイルスは変異を繰り返し、その存在感を表しています。

いかなる日常でも時は刻み続け、令和４年はまもなく年の瀬、すぐに新しい年を迎えます。

今年一年の皆様からの多くのご支援ご厚誼に深く感謝申し上げます。

ぜひ明朗塾特製の正月幸福飾りとともによいお年をお迎えください。

社会福祉法人光明会　理事長　小 澤 定 明

▲写真左 施設長 馬場正実 氏　▲写真中央 野口洋子さん　▲写真右 五十嵐安江さん

晴山会について

当法人は昭和43年10月、住宅公団の開業依頼を受け、花見川の地に平山病院を開設いたしました。

それを機に高齢者対策の必要性を感じ、社会福祉法人を設立。特別養護老人ホーム晴山苑を初め、老人保健施設・身体障害者療護施設を他に先駆けて開設してまいりました。微力ながら故郷千葉県の救急医療・地域医療に貢献出来ればとの思いでお引き受けし、現在に至っております。以来、多くの方のご指導・ご支援を賜りながら医療に福祉にと精進いたしております。

（ホームページhttps://seizan-kai.or.jp/「晴山会について」より引用）

（令和４年１１月２２日、施設長 馬場正実氏にインタビューを行いました。）

ロードレースでも活躍する蒲原琴音さん

ロードレースの選手でもある蒲原さんは、大会でも優秀な成績を収めるなど仕事以外でも活躍されています。直近では「大磯クリテリウム」で３位の成績を収めたと話していました。

非常に体力があり、ご入居されている方の入浴介助、排泄介助、食事介助等の業務を精力的に行っています。勤務時間は８時間/日 × ３日間/週（日勤7時30分～ 16時30分）で働いています。

蒲原さんとの出会いは、介護士である職員と蒲原さんが通っている整骨院の先生が顔見知りであったこと、蒲原さんが高齢者介護の仕事に就きたいとの希望もあったことがきっかけになりました。

多彩な特技を持つ野口洋子さん

習字やフットマッサージなど多彩な特技を持つ野口さんは、特技を活かしてご利用されている方が書かれる習字の手本を書いています。洗濯業務（洗濯物の回収・洗濯・乾燥・畳み）、館内のモップ掛け

ご利用されている方へのお茶の提供や入浴後のドライヤー掛けを丁寧に真面目に行っています。

勤務時間は５時間/日 ×3日間/週で、半年後を目途に20時間/週の勤務を目標としています。

野口さんは、支援機関が開催した企業合同説明会に参加したことがきっかけで出会えました。

▲ご利用されている方　▲写真右　蒲原琴音さん

無理のないコミュニケーション

特別な配慮はしていませんが、要望があれば可能な限り叶えられるようにしています。業務内容の向き不向きは誰にでもあることなので、できること、できないことを聞き取ることで正確に把握し、業務を任せることで能力が発揮しやすくなります。

また、ご本人の聞き取りだけではなく当法人の看護師や産業医の医学的な根拠と支援機関の専門的な意見をもとに業務を見直すこともあります。

周囲の職員も障害者雇用を理解し、彼女たちのサポートをしてくれます。

▲一日の予定を把握しやすくするための工夫

しかし、過剰なコミュニケーションは特定の人への依存を生んでしまう可能性があるので広く浅くお互いが無理のないコミュニケーションを取れるように留意しています。

案ずるより産むが易し

雇用当初は、業務の制限が必要であると考えていましたが、実際に働き始めるとそのようなことはありませんでした。「案ずるより産むが易し」のことわざのように、雇用前に見学や実習、雇用後の障害者短時間トライアル雇用制度を活用することで、お互いに無理のない働き方ができます。

二人とも真面目に責任感を持って業務に取り組んでいるので、今後も新たな雇用を検討しています。

（文責・取材担当　主任職場定着支援担当　平川智則）

第93回お客様感謝デー特別企画

企業向けセミナー＆名刺交換会

基調講演「障がい者雇用の取り組みとその実践例」

令和4年10月27日（木）に第93回お客様感謝デー企画として「企業向けセミナー＆名刺交換会」をホテル日航成田において開催しました。

この会は未だ収束しない新型コロナウイルス感染の状況下において、企業と特別支援学校の先生方より双方の関係性が希薄になることを危惧する声を多数いただいたことがきっかけで開催することになりました。感染対策に万全を期すため、規模を縮小しての開催となりましたが、当日は障害者雇用をしている企業11社22名と特別支援学校の先生方6名にご参加いただきました。

第一部では基調講演で、ヤマト運輸株式会社成田主管支店人事・総務担当の齋藤涼様に「障がい者雇用の取り組みとその実践例」というテーマで、ご講演いただきました。

ヤマトグループでは、地域社会から信頼される事業活動を行うとともに、豊かな地域づくりに貢献され、特に障がいのある方を含む社会的弱者の自立支援を積極的に行っています。障がい者雇用率は全社計2.8%を達成し、成田主管では計28名様々な障害特性のある方が幅広い分野で活躍されていました。ヤマトグループの障害者雇用の始まりは、1995年1月に発生した阪神淡路大震災で、クロネコヤマトの生みの親である小倉昌男氏が被災した障がい者が働く共同作業所を訪れたことがきっかけでした。当時障害者の月収が1万円にも満たないこと知った小倉昌男氏は「月給10万円以上を支払う焼きたてのおいしいパンのお店」を運営することを決め、1998年に「スワンベーカリー」をオープンさせました。現在株式会社スワンは、パンの販売事業のみならず、クリーニング事業や野菜販売なども展開し多くの障害者が働いています。また小倉氏の個人資産を基本財産として設立された公益財団法人ヤマト福祉財団は、障がい者福祉への助成、障がい者の働く場パワーアップフォーラム、障がいのある大学生への奨学金支給など幅広い事業での障がい者支援の取り組みがなされています。

この「小倉イズム」は今なおヤマトグループの社員に継承され、これまで行ってきた取り組みをふまえながら、障害者雇用に対する知識の付け方、職場の理解を得る方法、合理的配慮や業務の切り出し方などについてのご講演いただきました。

▲「障害者雇用の取り組みとその実践例」の講演する齋藤 涼氏

第二部では参加された企業のご担当者様や特別支援学校の先生方の名刺交換会が行われました。新規事業に関する情報交換を行う企業や、現在働いている卒業生の様子を企業の担当者から聞き、安堵される先生方の様子が印象的でした。すべての参加者の方が活発に名刺交換を行い、多くの情報共有が交わされるなど、とても有意義な時間となりました。引き続き障害者雇用促進のために企業向けのセミナーや情報発信を計画していきますのでご期待ください。

（文責　事業所管理者　髙木夢貴）

▲名刺交換会の様子

【企業向けセミナー＆名刺交換会の内容】

14：00～14：10	挨拶　社会福祉法人光明会 常務理事　小澤啓洋
14：10～15：00	基調講演 「ヤマト運輸株式会社　障がい者雇用の実践とその取り組み」 講師　ヤマト運輸株式会社成田主管支店 人事・総務担当　齋藤　涼 氏
15：15～15：40	名刺交換＆懇談会
15：40～15：45	閉会挨拶　障害者就業・生活支援センター就職するなら明朗塾 センター長　関　幸太郎

新人職員紹介

職　名：指導員
氏　名：蝦名倖乃
（えびな ゆきの）
趣　味：車・お出かけ

コメント
精いっぱい努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

職　名：看護師
氏　名：高橋雪子
（たかはし ゆきこ）
趣　味：プランターで野菜を作り食べること

コメント
私に何が出来るか？と不安がいっぱいですが、お客様が健康で楽しく、生活していただけるよう、職員の皆様と共に支援します。

Merry Christmas

どこに出掛けても、クリスマスソングが流れてくる季節になりました。
わが家では、サンタさんのためにスコッチ（お酒）と葉巻を用意して、
家族でチキンを食べる習慣になっています。

光明会職員クリスマス過ごし方ランキング

1位　クリスマスケーキを食べる
2位　お部屋の飾り付けをする
3位　友達とクリスマスパーティー
4位　外　食
5位　特に何もしない
6位　仕　事
7位　デート

クリスマスエピソード

小さい頃、プレゼントを貰ったことがなく…クリスマスの当日、居間に入った瞬間、スーパーなどでよく売られているお菓子がたくさん詰まったサンタさんの靴下が目の前に!!
「嘘!?、私にもはじめての…」
ガサガサ、ガサガサ…と音が中を覗いたら、飼い猫がお菓子を全部食べていました。
結局、プレゼントはもらえませんでした。

皆様、クリスマスは子供が楽しむものだと言われていますが、大人も楽しめます！
コンサートやお食事会など、イベントがたくさん！ただ…浪費しすぎると、クレジットカード請求の悪夢を見ることになるので、くれぐれも使い過ぎにはご注意を。それでは楽しいクリスマスをお過ごしください。
これからが冬本番です！お体にはくれぐれもお気を付けてお過ごしください。

（文責　事務員 村井サユリ）